

銅鐸 — 弥生時代の祭りのカネ —

銅鐸は弥生時代に特有の青銅器で、これまでに 600 点ほどが発見されています。形はツリガネ形をしていて、内側にぶら下げた棒（舌と言います）を揺り動かして、それが銅鐸の内面の突帯とぶつかることによって音を発するように作られた「カネ」です。日本の銅鐸は基本的に紋様があり、吊り手（鈕と言います）も装飾され身の側縁に鰭があります。弥生時代前期末から弥生時代を通して、西日本を中心として祭祀の道具として作られ、次第に装飾が発達し、弥生時代後期に作られた銅鐸は巨大化して装飾が著しくなり、吊り下げようにはなっていません。最初の頃の銅鐸は高さ 20cm 程度ですが、最も新しい段階の銅鐸では高さが 134.7cm になるものも作られました。とても簡単に動かせるものではありません。祭りの道具として「鳴らす」ことから「見る」ことへ使い方が変わっていったと考えられています。そして古墳時代が始まる頃には、全く使われなくなりました。



発掘作業見学会(県受託事業) - 河原口坊中遺跡 -

日時： 3月22日(土) 10:00～／14:00～ ※荒天候の場合は翌日(小雨決行)
場所： 河原口坊中遺跡調査事務所 問合わせ先： TEL:046-235-3821
海老名市河原口 151(小田急線・JR相模線 厚木駅下車徒歩15分)
内容： 遺跡の発掘調査作業と調査成果の見学会(弥生時代の集落跡) 費用： 無料

遺跡見学会 - 小保戸遺跡 -

日時： 3月8日(土) 11:00～／14:30～ (各回1時間程度) ※荒天候の場合は翌日(小雨決行)
場所： 小保戸遺跡調査事務所 問合わせ先： TEL:042-783-1407
相模原市城山町字大保戸 1096 (橋本駅北口からバス「小倉」バス停下車徒歩20分)
(橋本駅南口からバス「諏訪ノ森」バス停下車徒歩10分)
※お車の場合は駐車スペースに限りがございますのでお乗り合わせの上、ご来跡ください。
内容： 調査成果の見学会(奈良・平安時代・近世) 費用： 無料

かながわ考古学財団 入門講座

平成20年度～ようこそ考古学～

第1回 テーマ 地獄・極楽・中世人 - やぐらから見る中世の葬送 -

日時： 5月9日(金) 19:00～20:30
場所： かながわ県民センター 402 会議室 (横浜駅西口徒歩5分)
講師： 吉田 智哉 (かながわ考古学財団)
費用・定員： (費用)無料 (定員)90名(応募者数が定員を越えた場合は先着順)
申し込み方法： 往復はがき又はメールに行事名、氏名、住所、電話番号を明記して、かながわ考古学財団野庭出土品整理室へ 〆切 4月25日(当日消印有効)

*** 発掘帖バックナンバーはホームページ(<http://www.kaf.or.jp>)からダウンロードできます。***

お申し込み
お問い合わせ

(財)かながわ考古学財団 野庭出土品整理室

〒234-0056 横浜市港南区野庭町 1660 ☎:fukyu@kaf.or.jp
TEL: 045-842-9888 (平日 8:30～17:15) FAX: 045-842-9904

考古学財団発掘帖

2008
1号

かながわ考古学財団情報誌

通巻4号

平成20年2月22日発行

年4回発行



河原口坊中遺跡 (かわらぐちぼうじゅう いせき)

河原口坊中遺跡は、JR 相模線・小田急小田原線の厚木駅の北西約1kmに位置し、標高約 21～22mの相模川中流域左岸の自然堤防に立地しています。

相模川河川改修事業・さがみグリーンライン事業に伴う調査では、多数の住居跡のほか、2基の方形周溝墓が発見されました。写真の第2号方形周溝墓は、弥生時代から古墳時代につくられた墓の形態のひとつで、方形に溝をめぐらせた内側に盛り土をして、死者を埋葬したものです。規模は溝の最大幅8m・深さ2.5m・全長約36m(溝端から端まで)を測り、たいへん大きなお墓です。

目次

● 発掘現場・出土品整理インフォメーション

海老名市：中野桜野遺跡
厚木市：岡田城際遺跡
海老名市：河原口坊中遺跡(さがみ縦貫道)
海老名市：社家宇治山遺跡
厚木市：川田前遺跡(厚木市教育委員会)

● 考古学ミニコラム

銅鐸

● 行事案内

発掘作業見学会(県受託事業)
遺跡見学会
かながわ考古学財団入門講座



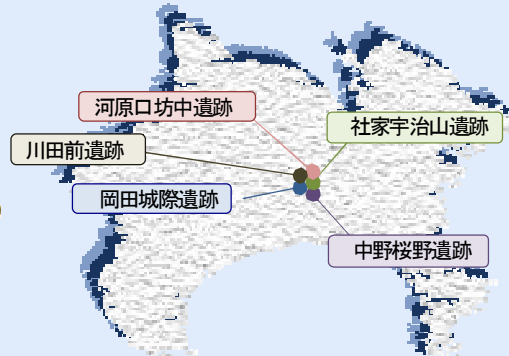
(財)かながわ考古学財団

〒232-0033 横浜市南区中村町 3-191-1

☎ 045-252-8689 FAX 045-261-8162 URL <http://www.kaf.or.jp>

発掘現場・出土品整理 インフォメーション

今回は平成19年度地域巡回展(2月20日
～25日・27日～3月3日)の遺跡の紹介を
します。



中野桜野遺跡 (なかのさくらのいせき)

(所在地)	海老名市	(時代)	近世・中世・古墳時代・弥生時代	(調査期間)	2003 年 11 月 1 日～ 2007 年 10 月 31 日
-------	------	------	-----------------	--------	--------------------------------------

本遺跡は、JR 社家駅から南西約 0.8km、JR 門沢橋駅から北西約 1km に位置し、相模川東岸の標高 14～15m の自然堤防上にあります。調査は東名高速道路改築事業に伴って実施しました。発見された遺物や遺構は弥生時代中期中葉から近世までと長期にわたります。今回の発掘調査で、この地における人々の営みが弥生時代中期中葉頃に始まり、弥生時代中期後半から古墳時代後期の 120 棟を超える住居跡が発見されました。

調査区の中央で中世の掘立柱建物跡とそれを取り囲む溝や、調査区の北端で近世に構築された旧堤防下から墓地なども発見されています。

古墳時代中期から後期の集落は、調査区全域が居住域となります。当時の住居跡には、炉を伴うものと竈を伴うものがあり、炉から竈へ変化する時期にあたるのがわかります。

弥生時代中期後半から古墳時代前期の集落は、調査区北側に居住域、調査区南側に墓域から構成されます。墓域からは方形周溝墓 30 基ほどが発見されました。この居住域と墓域の境となる場所に幾重にも溝がありますので、居住域と、墓域を分ける溝かもしれません。これらの集落跡は、稲作開始時期および定着期に相模川沿いの低地開発があったことを示す良好な資料です。



弥生時代 住居跡遺物出土状況(2003 年)

岡田城際遺跡 (おかだじょうぎわいせき)

(所在地)	厚木市	(時代)	中近世・奈良・平安時代・古墳時代・弥生時代	(調査期間)	2004 年 6 月 1 日～12 月 8 日 2005 年 6 月 1 日～06 年 10 月 15 日
-------	-----	------	-----------------------	--------	--

城際遺跡は厚木市の南東部の岡田にあり、相模川中流の右岸に形成された沖積微高地上に立地しています。調査は東名高速道路改築事業に伴って実施しました。

近世の遺構は土坑群と畠の跡と水田の跡があります。調査区の全域で見つかっていて当時の土地の利用の仕方を知ることが出来ます。中世の特色は、大溝に区画された集落です。遺構の中心は掘立柱建物の柱穴と溝

状遺構です。建物の柱の跡であるピットが多数発見されていて、何度も建て替えられたことがわかります。柱や礎板が残っているピットもありました。出土した遺物は豊富で、銭、かわらけ、青磁、陶器、漆椀、下駄、曲げ物などがあります。その他に調査区西側では稲作が行われていた、平安時代の畝状遺構も見つかります。また、調査区の東側では古墳時代の住居跡・溝状遺構、弥生時代後期の方形周溝墓が発見されています。

今回の調査により弥生時代後期から現代にいたるまで絶え間なく人の営みがみられる事がわかってきました。



古墳時代 住居跡(2004 年)

河原口坊中遺跡・さがみ縦貫道 (かわらぐちぼうじゅういせき・さがみじゅうかんどう)

(所在地)	海老名市	(時代)	近世・中世・奈良・平安時代・古墳時代・弥生時代	(調査期間)	2006 年 6 月 1 日～
-------	------	------	-------------------------	--------	-----------------

首都圏中央連絡自動車道(さがみ縦貫道路)建設事業に伴う調査では、古墳時代の小石室が見つかってい



9基発見されましたが、長方形に作られた石組みの大きさは幅 40～60 cm、長さは1～1.5mで、大人を埋葬するには小さく、高さは 40 cm くらいで、人が横から出入りすることは難しい大きさです。石組みに使った石は相模川の川原石を利用していたようです。その内の1基から碧玉製(?)管玉と水晶製の玉、ガラス小玉(ビーズ)が出土しています。土器が出土していないため詳しい時期はわかりませんが、7世紀頃に作られた可能性があります。

古墳時代 石室全景(2008 年 1 月)

社家宇治山遺跡 (しゃけうじやまいせき)

(所在地)	海老名市	(時代)	近世・中世・奈良・平安時代・古墳時代・弥生時代	(調査期間)	2003 年 3 月 1 日～ 2008 年 4 月
-------	------	------	-------------------------	--------	-------------------------------

本遺跡は、海老名市の南西部、JR相模線社家駅の北西約 0.3 kmに位置し、相模川左岸の沖積微高地(自然堤防)上に立地しています。本調査は、中日本高速道路横浜支社厚木工事事務所による、東名高速道路改築に伴う事前調査として行っています。

本遺跡からは、奈良・平安時代の道路状遺構が発見されています。路面の舗装は、工夫をこらしたもので、火山灰主体の土を敷きつめて路面としています。

火山灰主体土からは、多量の土器片と大小の自然礫が出土しています。土器の分布は、道路状遺構掘り方の窪んだ箇所と比較的多く分布する傾向が見て取れます。つまり地盤の悪かった場所を補修した際に、補強材(バラスト)として混入させた可能性が高いと考えられます。

奈良・平安時代道 遺物出土状況(2005 年)



川田前遺跡 (かわたまえいせき)

『神奈川県厚木市川田前遺跡』
厚木市旭町川田前遺跡発掘調査団 1998

(所在地)	厚木市	(時代)	近世・中世・奈良・平安時代・古墳時代	(調査期間)	1996 年 3 月 18 日～ 1996 年 11 月 30 日
-------	-----	------	--------------------	--------	--------------------------------------

本遺跡は、小田急線本厚木駅の南東約 450mに位置し、相模川西岸の標高約 17mの自然堤防上に立地しています。厚木市旭町川田前遺跡発掘調査団により調査されました。発見された主な遺構には、近世の溝状遺構、耕作跡、中世の掘立柱建物跡、溝状遺構、竪穴状遺構、井戸、土坑、土坑墓、奈良・平安時代の掘立柱建物跡、溝状遺構、土坑、ピット群、古墳時代の竪穴住居跡、土坑、円形周溝遺構などがあります。

奈良・平安時代の遺構では幅約5mの大溝が確認されています。この中からは、墨で文字が書かれた灰釉陶器や土師器など祭祀に関連すると思われる遺物が出土しています。



土師器坏・勾玉

古墳時代の竪穴住居跡は全部で7軒見つかり、住居の形状や出土した遺物から中期に当たる5世紀前半及び後期に当たる6世紀末～7世紀前半のものと思われることから、相模川西岸の低地域にも、この時期に集落が営まれていたことが明らかになりました。また、円形周溝遺構は、墳丘や主体部は確認されていませんが、古墳(円墳)の周溝であると思われます。(厚木市教育委員会)

※2月27日～3月3日厚木会場のみ展示